開校140周年

田無小学校

校長　宍戸　鈴子

田無小学校は、開校140周年を迎えました。とても長い歴史を刻んできた学校です。

明治5年の学制を受けて、当時の田無村で、明治6年8月25日に、「真誠学舎」を設立したことが、本校の始まりです。開校当時は、78人の児童でスタートし、昭和34年には最多の265人の在校生がいました。今年の3月に卒業した109人を含めると、1万6225人の卒業生を送り出してきました。現在の在校生（637人）にも、おじいさまやおばあさま、お父さまやお母さまが、本校の卒業生であるという児童が多くおり、地域に根づいた伝統ある学校ならではのことだと思います。

開校当時から現在の場所に学校があったのではありません。当時は、総持寺の隣にあった密蔵院に「真誠学舎」ができ、その後、明治8年に「田無学校」と名前が変わりました。明治15年に、上宿の観音寺跡に建設された新校舎に移転し、大正14年に現在の位置に新校舎ができました。その年の4月22日に落成式を行い、この日を開校記念日としたそうです。

田無学校（真誠学舎）

開校の時、本校に赴任された刑部真琴先生は、明治16年に初代校長となり、退職される明治33年までの長きにわたり、本校を支えてくださいました。まさしく本校や地域にとってかけがえのない先生でした。刑部先生の功績をたたえ、昭和3年に胸像の建立が決まり、銅像ができました。その後、第二次世界大戦となり、昭和19年に銅像は供出されてしまいました。終戦後、残念ながら胸像はもどってきませんでしたが、昭和28年に石の胸像で復元され、現在もその威厳を保って、正門をくぐってくる子どもたちを見守ってくださっています。刑部先生の教えが、今も続いている気がします。

本校は、駅に近く街の中の学校という感じですが、校庭には大きな銀杏の木をはじめ、たくさんの樹木があります。そのうち、「西東京市の木50選」に4本も選ばれました。その一つが、正門脇にある「かしわ」の木です。大正3年につくられた現在の校章に、このかしわの葉がデザインされています。「かしわ」は、新芽が出るまで落葉しないという愛情の深さと、彫りの深い葉は表裏のない誠実さを象徴するとして、3枚のかしわの葉と田無の「田」を配置して校章になりました。校歌の3番の歌詞に「かしわの若葉あざやかに表も裏もかげ深し」と、愛唱されています。

このような歴史ある本校の開校140周年をお祝いして、6月15日には140周年記念児童集会を行い、全校児童で、「大好き田無」と題し、田無の歴史や今の田無の良さを学習したことを発表し合いました。集会の最後には、全校児童がお祝いのメッセージを付けた風船を大空に飛ばしました。さらに田無が好きになり、140周年を迎えたことを心からお祝いしました。

また、西東京市長や市の関係者、日頃から学校にご協力いただいている地域の皆様をお迎えして、開校140周年記念式典を6月27日に行いました。来賓の皆様からお祝いのご挨拶をいただき、代表で参加した5・6年生は、元気な呼びかけと歌で、お祝いを表現しました。

児童集会の様子

こうして140周年を迎えた田無小学校は、今後も地域の学びの場として歴史を重ね、ますます栄えていってくれることと確信しています。

小規模校統廃合に関する意識調査にご協力をお願いします

教育委員会では、小規模化が進行している住吉小学校・泉小学校・保谷小学校・本町小学校の統廃合の検討を昨年度から行っており、検討を進めていく上で、保護者・地域の方の意識を把握するため、意識調査を実施しています。

調査票の対象者は次のとおりで、回答期限は、7月19日（金）とさせていただいております。

意識調査が届いた方は、調査にご理解・ご協力いただきますようお願い申し上げます。

【意識調査対象者】

・右記4校の全保護者
・未就学児の保護者の一部
・市内在住者で住民基本台帳から無作為に抽出された方ほか

◆教育企画課　042（438）4070

楽しい学校生活のために
～一人ひとりの教育的ニーズをとらえて～

子どもの成長や発達は、一人ひとりちがいます。お子さんの成長を見守るなかで、気になることはありませんか？

きづきが支援のスタートです

学校は、保護者と連携を密にしながら、子どもたち一人ひとりに応じた支援を行っていきます。きめ細やかに指導ができるよう、学級や学年を越え、組織的に指導の計画を立て、個人面談等を通じて保護者と一緒に支援していきます。

校内の特別支援教育コーディネーターは、教員・保護者・関係機関と連携をとりながら、一人ひとりに合わせた支援ができるよう支援体制を作る中心的な役割を担います。

様々なきづきから学校と相談したり、以下の相談窓口にご相談ください。

◇市の相談窓口◇

○臨床心理士による教育相談
　042（425）4972
○就学相談
　042（438）4076
○教育全般の相談（指導主事）
　042（438）4075
○子ども家庭支援センター「のどか」
　042（439）0081

◆教育支援課　042（438）4074

教育委員・教育長が任命されました

江藤　巧氏、米森修一氏が教育委員会の教育委員として、6月25日の市議会で同意され、7月1日付で任命されました。

また、7月1日の教育委員会臨時会において江藤　巧氏（53歳、東村山市在住）が教育長として任命されました。

教育長　江藤　巧

◆教育企画課　042（438）4070

教育委員会報告

【第4回定例会・4月23日】
〈可決・承認〉
○西東京市立小学校の副校長の人事の内申について
○西東京市奨学生選考委員会委員の委嘱及び任命についての専決処分について
○西東京市社会教育委員の解嘱についての専決処分について
○西東京市社会教育委員の解任及び任命についての専決処分について
○西東京市公民館運営審議会委員の解任及び任命についての専決処分について
○西東京市公民館運営審議会委員の委嘱及び任命について
○西東京市図書館協議会委員の委嘱及び任命について
○報告事案　5件

【第5回定例会・5月28日】
〈可決・承認〉
○平成25年度西東京市教育委員会の教育目標・主要施策について
○平成25年度教育関係予算について（申出）の専決処分について
○西東京市教育委員会の職員の人事についての専決処分について
○報告事案　2件

◆教育企画課　042（438）4070

シリーズ 西東京市文化財
蓮見家文書
（市文化財第48号）

北町一丁目3番の旧下保谷村の名主であった蓮見家に伝わる文書で、江戸時代前期寛永16年（1639）から昭和20年（1945）までの村政にかかわる文書や私的な文書や書籍を含め、文書1379点と書籍215点の計1594点です。

このうち、特に重要な資料に、明治2年の「武蔵国新座郡下保谷村絵図」があります。明治新政府による改革のひとつに府藩県三治制があります。明治元年（1868）年、政体書により府・藩・県の三治制とし、府県には知県事・判事を置き、藩は従来どおり諸大名の統治とし、府は東京をはじめ9か所におきましたが、翌年東京・京都・大坂の3府のみとなりました。同年、版藩奉還で大名を知藩事に任命し、1871年の廃藩置県で府藩県三治制はなくなりました。この絵図は、下保谷村での駿河以東十三ケ国における府藩県三治制の実施にあたり、品川県に編入された時のもので、下保谷村の役人が明治2年（1869）9月に「品川県御役所」に提出した時の絵図の下図です。絵図作成の目的は、詳細な地図を作ることで租税の高を量り、その府県の常費を定めることにありました。小字ごとに屋敷と品等畠面積が書き込まれ、下保谷全体の高反別と家数を集計しています。家、道、川（白子川）、橋、塚、馬捨場等詳細に描かれていますが、現ひばりが丘北四丁目、ひばりが丘一～四丁目にあった「下保谷新田」が記載されていないことから正確さに欠けている部分もみられます。また、塚については、下保谷村には村境に「鐘塚」、「経塚」、「庚申塚」、「弾中塚」と4つありましたが現存しません。最後まで残されていた「弾中塚」は南入経塚といい、地域では「三角山」と呼ばれていましたが、都市計画道路3・2・6号線の敷設のために、平成20年（2008）発掘調査が実施され消滅しました。江戸時代（元禄期）の絵図にも「弾塚」として描かれていたことから江戸時代には存在していたことがわかっていますが、発掘調査によって年代がわかる遺物は出土しませんでした。

失われてしまった文化財を将来に伝えるため、また歴史を辿る大切な資料として、この文書群は大変重要です。江戸時代からの下保谷村の歴史を知る貴重な文化財として、平成12年に指定されました。

文化財保護審議会委員　都築恵美子

◆社会教育課　042（438）4079

毎月開催される教育委員会定例会を傍聴することができます。日時・会場については、広報西東京・市ホームページでお知らせしています。